

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和3(2021)年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「アプリを活用した発達障害青年成人の生活支援モデルの
確立」

研究代表者氏名

辻井正次

(中京大学現代社会学部 教授)

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の令和3年4月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（令和3年4月～令和4年3月）の実施内容を報告するものである。

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	2
2-3. 会議等の活動	8
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	9
4. 研究開発実施体制	9
5. 研究開発実施者	9
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	11
6-1. シンポジウム等	11
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	11
6-3. 論文発表	11
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	11
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	11
6-6. 知財出願	11

1. 研究開発プロジェクト名

「アプリを活用した発達障害青年成人の生活支援モデルの確立」

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

研究開発成果の定着の姿として考えているのは、全国どこであっても、発達障害等のある成人当事者がアプリを通して緩やかに支援者や仲間とつながって地域で安心して暮らしていけるようになることである。その前提として、地域の支援者たちがアプリを活用することで支援課題が明確になり、効果的な支援ができるようになっていくことが重要である。アスペ・エルデの会が本事業の主体となり、アプリの活用されたデータが個人情報保護を行ったうえで蓄積され、共同研究の枠組みの中で中京大学の研究者たちが分析し、アプリのバージョンアップの際に機能を向上させていく。定着支援後は、中京大学はアスペ・エルデの会との共同研究を実施し、その中で個人情報を適切に預かり、研究分析を行い、その結果得られた研究成果をアスペ・エルデの会に提供する。

A. 事業計画の策定

今回の定着支援においては、以下のようなアプリの社会実装事業計画を策定する。アスペ・エルデの会が中京大学および他の実施者や協力者らと協力して、発達障害等の成人当事者を対象とするアプリの社会実装を実行するアプリ社会実装事業計画が策定されていることを目標とする。具体的には、1000人規模の成人発達障害当事者等と100事業所・団体の参加や地域支援への利活用に基づき、アプリの全国での社会実装に関連した内容が含まれた事業計画である。

- ・全国でのアプリの利用のため、発達障害成人の地域支援等に取り組む事業所での利用促進のための発信。
- ・アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会の実施。
- ・アプリの運用やバージョンアップと個人情報保護に留意した情報の利用についての検討と検証。

B. 事業計画の実行のための準備

上記のように策定されたアプリの社会実装事業計画を実行するための準備として、以下が達成されていることを目標とする。

- ・アプリ社会実装体制の構築・地域支援相談窓口人材の確保
- ・開発された知財の利活用に対する許認可の獲得
- ・アプリ社会実装運営体制の確定（活動資金の獲得、資金繰り計画の確定、責任分担の明確化）

2-2. 実施内容・結果

(1) 各実施内容

A 事業計画の策定

- ★到達点：全国の発達障害等の成人当事者の支援機関への周知。

実施項目①全国でのアプリの利用のため、発達障害成人の地域支援等に取り組む事業所での利用促進のための発信

実施時期2021年4月～2022年3月を予定。

具体的には、アプリについてのインターネットや紙素材での案内を作成し、全国の障害者就労・生活支援センターや就労定着支援事業所3000ヶ所程度への案内を複数回実施する。

マイルストーン：2021年3月に全国の障害者就労・生活支援センターや就労定着支援事業所3000ヶ所程度への周知を達成していることがマイルストーンとなる。

担当者：辻井正次（中京大学）

★到達点：定期的な研修会の実施。

実施項目②アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会の実施。

実施時期2021年4月～2023年3月を予定。

具体的には、アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会を50人程度、年間4回実施し、アプリを活用してどのように支援を実施し、業務に取り入れていくのかを研修を行っていく。実際にアプリを活用する支援者ユーザーの会を構成し、勉強会を構成していく。2021年度は研修会の研修内容の確定とユーザーの会の創設を中心とする。

マイルストーン：年間4回合計200人の研修を実施し、2年間で400人程度の支援者の参加を得るとともに、ユーザーの会を創設する。

担当者：辻井正次（中京大学）

★到達点：個人情報保護に留意した得られたデータの利活用の実施方法を確定する。

実施項目③アプリの運用やバージョンアップと個人情報保護に留意した情報の利用についての契約様式や手法の検討と検証。

実施時期2021年4月～2023年3月を予定。

具体的には、アプリによって得られたデータを蓄積し、実際の地域支援にコメントとして還元していく仕組みの提示と、発達障害等の成人当事者の地域支援のための二次的な利活用の安全な実施方法についての勉強会を実施し、可能なやり方を確定する。アプリの利用を希望する事業所側の活用状況を調査し、取りまとめる。個人情報保護に関わる事業所等との契約様式や個人情報保護の手法に関して、法的な検討を加える。2021年度は勉強会の創設と支援者ユーザーの会に対して実際の利活用のニーズを把握しつつ、アプリのバージョンアップに反映させていく取り組みを重ねる。

マイルストーン：アプリにおける実際の支援手法への還元と二次利用への安全な実施方法について、法的検討と契約書様式等を確定する。

担当者：曾我部哲也（中京大学）・辻井正次(NPO法人アスペ・エルデの会)

B 事業計画の実行のための準備

★到達点：事業の実施体制を構築する。

実施項目④アプリ社会実装体制の構築・地域支援相談窓口人材の確保

実施時期2021年4月～2022年12月を予定。

具体的には今回のアプリ社会実装を、アスペ・エルデの会をプラットフォームに推進していくよう、地域支援体制窓口を整備し、また全国の実施者（共同研究者）たちを核に実際に

アプリを活用している支援者ユーザーの会を組織し、全国各地での支援者支援体制づくりに取り組む。2021年度は地域支援体制窓口の創設と、ユーザーの会の創設のための準備を行う。

担当者：辻井正次（NPO法人アスペ・エルデの会）

★到達点：事業の実施体制を構築する。

実施項目⑤開発された知財の利活用に対する許認可の獲得

実施時期2021年4月～2022年8月を予定。

具体的には今回のアプリについて申請した特許の利活用について、アスペ・エルデの会との共同出願時の契約を基に知財の利活用についての契約を結ぶとともに、アスペ・エルデの会との間で、アプリを利用する支援者の所属する支援機関との間での利活用の契約内容や中京大学からアスペ・エルデの会への権利譲渡の在り方等を明確にし、契約を締結する。中京大学-アスペ・エルデの会の間での契約締結時期については、2021年中のできるだけ早い時期とする。

担当者：辻井正次（中京大学・NPO法人アスペ・エルデの会）

★到達点：社会実装のための事業の運営体制を構築する。

実施項目⑥アプリ社会実装運営体制の確定（活動資金の獲得、資金繰り計画の確定、責任分担の明確化）

実施時期2021年4月～2023年3月を予定。

具体的には今回のアプリ社会実装を、アスペ・エルデの会をプラットフォームに継続し続けられるように、アプリの知財関係を管理し、研修会を定期的実施でき、活用されたアプリを用いた相談や地域支援が推進していけるよう、地域支援体制窓口を維持し、また全国の実施者（共同研究者）たちや支援者ユーザーの会へのサポートを行っていく。2021年度は研修会を実施しつつ、支援者の有償参加のニーズを検討していく。

担当者：辻井正次（NPO法人アスペ・エルデの会）

（2）成果

A事業計画の策定

★到達点：全国の発達障害等の成人当事者の支援機関への周知。

実施項目①全国でのアプリの利用のため、発達障害成人の地域支援等に取り組む事業所での利用促進のための発信

アプリについてのインターネットや紙素材での案内を作成し、全国の障害者就労・生活支援センターや就労定着支援事業所3495ヶ所への案内を2回実施した。2021年3月に全国の障害者就労・生活支援センターや就労定着支援事業所3495ヶ所への周知を行った。その結果、アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会への参加者が増加し、案内を行なった事業所等を含め189人の支援者の参加が得られた。当日参加できず、資料の要望などもあり、アプリの周知においては一定の成果があった。

◎アプリの社会実装に向けた準備

(1) サーバの整理

広報用のサーバと、アプリのサーバを分けた運用を開始した。広報用のURLは life-log.blue とした。

(2) 死活監視システムの構築と検証

サーバダウンやSSL有効期限通知、トラフィック増を自動で通知する死活監視システムを構築した。現在は研究分担者の研究室に設置しているが、冗長性等を考慮しても1台程度の設置を検討している。

(3) スマホアプリ版ライフログクリエーターのテストと修正

iOS版、Android版ともテストを行っている。利用者から通知の種類を選択できるように希望があったため、ユーザーが通知の内容をカスタマイズ出来るようにした。またリリースについては、アプリストアの規約と研究体制との整合性をはかる必要があるため継続して作業中である。

(4) サポートグラムカテゴリの設置

利用者の生活改善を行うサポートプログラムを行えるよう、カテゴリを設置した。

(5) 事業化に向けたコスト確認

事業化に向けたコストを確認し、サーバ面の年間支出計画案を作成した。

使用状況の推移など

アカウント数は2021→2022年で13.9%増、チェック回数は75.1%増、イベント件数は24.2%増であった。また、利用事業所は2021→2022年で50から65事業所へと増加した。特に中部地区は16から23事業所、九州地区4から7事業者と増加が顕著だった。

担当者：辻井正次（中京大学）・曾我部哲也（中京大学）

★到達点：定期的な研修会の実施。

実施項目②アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会の実施。具体的には、アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会を50人程度、年間6回実施し、アプリを活用してどのように支援を実施し、業務に取り入れていくのかを研修を行った。2021年度は年間6回(4/18, 5/27, 7/4, 1/20, 2/13, 3/6))、合計189人の研修を実施した。次年度と合わせ2年間で400人程度の支援者の参加を目指す。ユーザーの会の創設は準備中である。

担当者：辻井正次（中京大学）

★到達点：個人情報保護に留意した得られたデータの利活用の実施方法を確定する。

実施項目③アプリの運用やバージョンアップと個人情報保護に留意した情報の利用についての契約様式や手法の検討と検証。

具体的には、アプリによって得られたデータを蓄積し、実際の地域支援にコメントとして還元していく仕組みの提示と、発達障害等の成人当事者の地域支援のための二次的な利活用の安全な実施方法についての勉強会を実施し、可能なやり方を確定する。アプリの利用を希望する事業所側の活用状況を調査し、取りまとめる。個人情報保護に関わる事業所等との契約様式や個人情報保護の手法に関して、法的な検討を加える。2021年度は勉強会の創設と支援者ユーザーの会に対して実際の利活用のニーズを把握しつつ、アプリのバージョンアップに反映させていく仕組みを重ねた。アプリにおける実際の支援手法への還元と二次利用への安全な実施方法について、法的検討を行い、契約書様式等を確定した。

担当者：曾我部哲也（中京大学）・辻井正次(NPO法人アスペ・エルデの会)

B 事業計画の実行のための準備

★到達点：事業の実施体制を構築する。

実施項目④アプリ社会実装体制の構築・地域支援相談窓口人材の確保

具体的には今回のアプリ社会実装を、アスペ・エルデの会をプラットフォームに推進していけるよう、地域支援体制窓口を整備し、また全国の実施者（共同研究者）たちを核に実際にアプリを活用している支援者ユーザーの会を組織し、全国各地での支援者支援体制づくりに取り組む。2021年度は地域支援体制窓口の創設と、ユーザーの会の創設のための準備を行った。

担当者：辻井正次（NPO法人アスペ・エルデの会）

★到達点：事業の実施体制を構築する。

実施項目⑤開発された知財の利活用に対する許認可の獲得

具体的には今回のアプリについて申請した特許の利活用について、アスペ・エルデの会との共同出願時の契約を基に知財の利活用についての契約を結ぶとともに、アスペ・エルデの会との間で、アプリを利用する支援者の所属する支援機関との間での利活用の契約内容や中京大学からアスペ・エルデの会への権利譲渡の在り方等を明確にし、契約を締結した。

担当者：辻井正次（中京大学・NPO法人アスペ・エルデの会）

★到達点：社会実装のための事業の運営体制を構築する。

実施項目⑥アプリ社会実装運営体制の確定（活動資金の獲得、資金繰り計画の確定、責任分担の明確化）

具体的には今回のアプリ社会実装を、アスペ・エルデの会をプラットフォームに継続し続けられるように、アプリの知財関係を管理し、研修会を定期的実施でき、活用されたアプリを用いた相談や地域支援が推進していけるよう、地域支援体制窓口を維持し、また全国の実施者（共同研究者）たちや支援者ユーザーの会へのサポートを行っていく。2021年度は研修会を実施しつつ、支援者の有償参加のニーズを検討した。

担当者：辻井正次（NPO法人アスペ・エルデの会）

(3) スケジュール

実施項目		研究開発期間		
		(2021年度) (2021.4~2022.3)	2022年度 2022.4~2023.3	事後評価期間 2023.1~ 2023.3
A 事業計画の策定	実施項目①全国でのアプリの利用のため、発達障害成人の地域支援等に取り組む事業所での利用促進のための発信。	→	全国3000か所程度に案内	
	実施項目②アプリを用いた発達障害等の成人当事者の地域支援についての研修会の実施。	→	年間4回200人受講	
	実施項目③アプリの運用やバージョンアップと個人情報保護に留意した情報の利用についての検討と検証。	→	勉強会の設置と実施	
B 事業計画の実行のための準備	実施項目④アプリ社会実装体制の構築・地域支援相談窓口人材の確保	→	体制の整備	
	実施項目⑤開発された知財の利活用に対する許認可の獲得	→	手続きの完了	
	実施項目⑥アプリ社会実装運営体制の確定(活動資金の獲得、資金繰り計画の確定、責任分担の明確化)	→	中京大学と会との契約締結 体制の整備	
ガバナンス		2021年6月 1回目	2022年6月 2回目	2023年2月 3回目

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

特に2022年3月頃にアプリの再活用を問い合わせる事業所が数件あり、年度始めなどユーザーの利用を促進できそうな時期にキャンペーンを実施することを検討する。その他に利用頻度が少ないユーザーへのアプローチを検討したい。

ユーザー事業所から以下のようなコメントをいただいた。

- 自己評価と支援者評価のズレを見せることで、自己理解を促すことができる。例えば『スコア4を7にするにはどうすればよいか?』といった会話があった。
- 支援者が言葉で言っても伝わりにくいが、本人が気づいたときに強く、アプリが自己認知を促進していると考えられる。

利用者は、他者からの評価を自分のタイミングで受け入れられるのも自己認知を高めるのに役立っていると考えられる。アプリを積極的に利用することで、ユーザーのQOL向上に役立っている可能性が考えられる。

利用する事業所等、あるいは当事者にとってのメリットを考えて、生活チェック機能とイベント機能をつなぐ意味合いも含め、イベント機能の中に『プログラム』を入れて、イベントの中から具体的な支援プログラムを取り出して、実施できるような仕掛けを準備することにした。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2021年4月18日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（4月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。
2021年5月27日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（5月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。
2021年7月4日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（7月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。
2022年1月20日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（1月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。
2022年2月13日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（2月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。

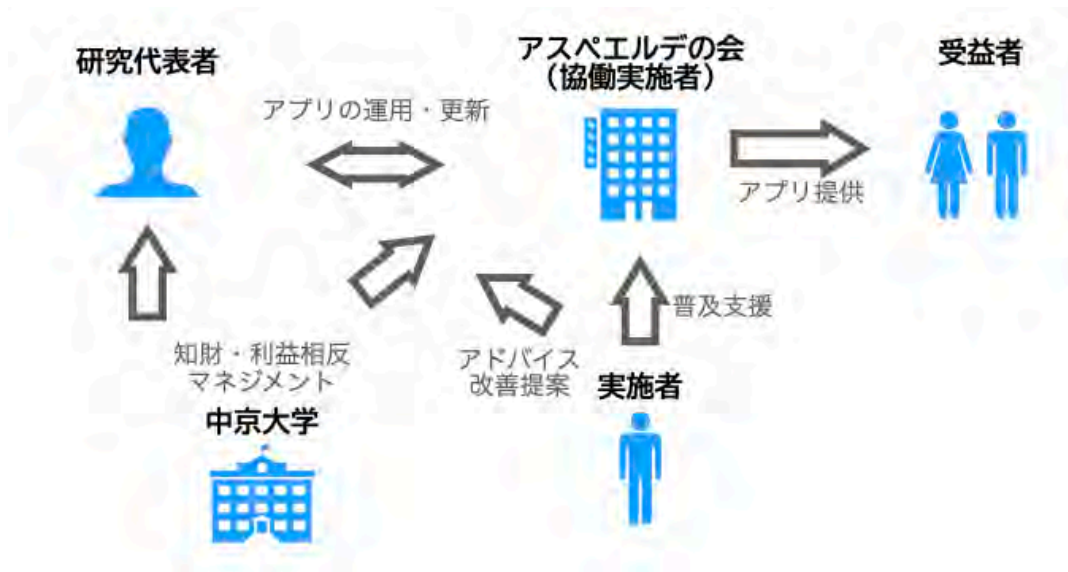
2022年3月6日	アプリ『ライフログクリエイター』を活用した発達障害等の成人当事者の地域支援勉強会（3月実施分）	オンライン	ライフログクリエイターの利用法の説明と、成人期の発達障害等の人たちの支援概論など。
-----------	---	-------	---

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

現在、全国各地の発達障害等の成人たちの地域支援の事業所で活用されている。2021年度で、利用事業所が前年度より50から65事業所へと増加している。特に中部地区や九州地区での増加が顕著だった。実際の活用においても、アカウント数は3.9%増、チェック回数は75.1%増、イベント件数は24.2%増であった。

2022年度に、実際にアプリを導入した場合にどのようなメリットがあるのかを検証する取り組みを行うことも決まっており、最終年度に向けて、社会実装への準備が加速されたと考えられる。

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

参画機関：中京大学

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
辻井正次	ツジイマサツグ	中京大学	現代社会学部	教授
曾我部哲也	ソガベテツヤ	中京大学	工学部	准教授
明翫光宜	ミョウガンミツノリ	中京大学	心理学部	教授

中島卓裕	ナカジマタカヒロ	中京大学	現代社会学部	研究員
後藤周策	ゴトウシュウサク	中京大学	現代社会学部	研究員

参画機関：NPO法人アスペ・エルデの会

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
辻井正次	ツジイマサツグ	NPO法人アスペ・エルデの会	事務局	理事長・CEO
畑原幸貞	ハタハラユキサダ	NPO法人アスペ・エルデの会	事務局	理事・事業部長・社会福祉士
杉山登志郎	スギヤマトシロウ	NPO法人アスペ・エルデの会	事務局	理事・臨床統括ディレクター・医師
石川道子	イシカワミチコ	NPO法人アスペ・エルデの会	事務局	理事・臨床統括ディレクター・医師
鈴木勝昭	スズキカツアキ	NPO法人アスペ・エルデの会	事務局	臨床統括ディレクター・医師
杉山文乃	スギヤマアヤノ	NPO法人アスペ・エルデの会	放課後等サービス事業所「音色」	児童指導員
香取みずほ	カトリミズホ	NPO法人アスペ・エルデの会	児童発達支援事業所「ぷちぱ」	児童指導員

個人での参加

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
伊藤大幸	イトウヒロユキ	中部大学	現代教育学部	講師
浜田恵	ハマダめぐみ	名古屋学芸大学	ヒューマンケア学部	講師
高柳伸哉	タカヤナギノブヤ	愛知東邦大学	人間健康学部	准教授
宮地菜穂子	ミヤジナオコ	同朋大学	社会福祉学部	講師

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

特になし

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

特になし。(現在、2冊印刷中 令和4年度刊行予定)

(2) ウェブメディアの開設・運営

プロジェクトのHP ; <https://life-log.blue/>

(3) 学会(6-4.参照)以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

特になし。

6-3. 論文発表

(1) 査読付き(〇件)

●国内誌(〇件)

●国際誌(〇件)

(2) 査読なし(〇件)

6-4. 口頭発表(国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演(国内会議 〇件、国際会議 〇件)

(2) 口頭発表(国内会議 〇件、国際会議 〇件)

(3) ポスター発表(国内会議 〇件、国際会議 〇件)

.

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿(〇件)

(2) 受賞(〇件)

(3) その他(1件)

・中京大学広報誌「真剣味」第199号 P8。プロジェクト紹介。

6-6. 知財出願

(1) 国内出願(〇件)

(2) 海外出願(〇件)